

# 洲本市安乎町の蝶類とその変遷

堀田 久<sup>1</sup>

はじめに

筆者が初めて蝶類の標本を作ったのは、1942年（中学2年生）の夏休みのことであり、その時のクロアゲハやルリタテハの標本は今も健在である。その後も昆虫に対する興味は変わらなかったが、当時は第二次世界大戦の最中であつたので、本格的な標本づくりに取り組んだのは1946年の夏からである。その頃はまだ在学中で、春休みや夏休みの採集が主であつたが、1948年の4月からは志筑の中学校に勤務することになり、年間を通じて観察や採集ができるようになった。1953年の4月から西宮市の中学校に勤務していたが、春休みや夏休みには島内でも採集や観察を行つてきた。そして、1970年の4月からは洲本市内の中学校に勤務することになり、その後は安乎町の自宅付近を中心として、淡路島内の昆虫調査を続けてきた。この間、環境や気候状況などの変化と共に、その姿を殆ど見かけなくなったものもあれば、南方系の蝶のように分布範囲を広げ、個体数を増しているものもある。

ここでは、筆者の観察結果や保存する標本に基づき、安乎町の自宅付近を中心として、これまでに記録した蝶類とその変遷について述べてみたいと思う。

## セセリチョウ科

### 1. ミヤマセセリ *Erynnis montanus*

3月下旬から5月初旬にかけて、雑木林や山地の路傍で見られたが、もともと個体数が少なく、近年は見かけていない。

### 2. ホソバセセリ *Isoetes lamprospilus*

6月から8月にかけて見られるが、個体数はあまり多くない。

### 3. キマダラセセリ *Potanthus flavus*

5月下旬から9月にかけて見られるが、個体数はあまり多くない。

### 4. コチャバネセセリ *Thoressa varia*

4月から10月頃まで見られ、個体数も多い。

### 5. オオチャバネセセリ *Polytremis pellucida*

7月から9月にかけて見られるが、個体数はあまり多くない。

### 6. チャバネセセリ *Pelopidas mathias*

5月から10月頃まで見られるが、特に遅い記録としては1988年12月19日というのがある。（本誌 No. 35）。

### 7. イチモンジセセリ *Parnara guttata*

5月から10月頃まで見られ、個体数も多い。幼虫はツトムシと呼ばれ、イネの害虫として昔からよく知られている。

## アゲハチョウ科

### 1. ジャコウアゲハ *Atrophaneura alcinous*

春型は4月下旬から現れ、夏型は7月から見られるが、個体数は春型の方が多い。

### 2. アオスジアゲハ *Graphium sarpedon*

春型は4月下旬から、夏型は6月下旬から見られるが、個体数はあまり多くない。

### 3. キアゲハ *Papilio machaon*

1: 〒656 2124 洲本市安乎町北谷 630

春型は4月から、夏型は6月から現れ、畑のバセリやニンジンに幼虫が見られる。

4. アゲハ *Papilio xuthus*

春型は3月下旬から、夏型は6月から現れて、10月頃まで見られる。

5. クロアゲハ *Papilio protenor*

春型は4月から、夏型は6月から現れて9月まで見られる。

6. ナガサキアゲハ *Papilio memnon*

1958年7月27日に、自宅横のミカン畑で雌を採集したが、これは、淡路島での初記録から7年目のことであり、島内における2回目の採集記録となった。1970年頃には、年によって発生の個体数に大きな差があり、確認できたのは夏型だけであった。1980年の5月には、上記のミカン畑で新鮮な雄を採集し、その後は越冬蛹も確認して、毎年春型も多数見られるようになった。なお、成虫の見られる期間も長くなり、最も早い記録は1998年4月24日(雄)で、最も遅い記録は1997年11月13日(雌)である。

7. モンキアゲハ *Papilio helenus*

春型は5月から現れ、夏型は7月から現れる。1940年代には希少な種であったが、次第に個体数を増し、特に6月上旬にはサツキの花に、7月下旬にはオニユリの花に集まって、乱舞する姿も見られる。

8. カラスアゲハ *Papilio bianor*

春型は4月下旬から、夏型は7月中旬から現れるが、個体数はあまり多くない。

9. ミヤマカラスアゲハ *Papilio maackii*

安乎町で最初に採集したのは1973年9月23日のことであり(本誌No. 11)、その後1996年6月(夏型雌)と、1998年5月(春型雌)に新鮮な個体を採集している(本誌No. 48)。

### シロチョウ科

1. キチョウ *Eurema hecabe*

5月に春型が出現して、その後数回の発生を繰り返し12月になっても成虫が見られる。越冬個体は、真冬でも暖かい日には飛翔することがある。

2. ツマグロキチョウ *Eurema laeta*

1970年9月10日に採集したが、その後は見ていない。

3. モンキチョウ *Colias erate*

成虫は2月中旬から11月にかけて見られるが、暖かい年には下記のように飛翔活動を確  
認している。1995年12月31日(1雌)、1996年1月2日(1雌)、1996年1月6日(1雌)。

4. ツマキチョウ *Anthocharis scolymus*

3月下旬から5月上旬にかけて出現する。近年個体数は減少しているが、それでも1日に  
数頭目撃することもある。

5. モンシロチョウ *Pieris rapae*

これまでで最も早い初見日は1989年2月12日(1雄)で、この年の発生状況を観察した  
結果、4月上旬が第1化の最盛期で、5月中旬第2化、6月下旬第3化、7月下旬第4化、8  
月下旬第5化、10月上旬第6化と、年6回の発生を確認した。

6. スジグロシロチョウ *Pieris melete*

3月下旬から出現し、10月まで見られるが、個体数はあまり多くない。

### シジミチョウ科

1. ムラサキシジミ *Narathura japonica*

1950年代には普通種であり、筆者宅の生垣(ウバメガシとアラカシが多い)にも見られ

たが、1970年頃から見られなくなっていた。それが、10年ほど前から時々見られるようになり、特に昨年（2000年）は個体数が多く、12月20日になっても活動しているのが見られた。

## 2. アカシジミ *Japonica lutea*

安乎町で本種を採集したのは1983年6月のことであるが、その後は自宅付近でも、5月中旬から6月中旬にかけてよく見られるようになった。今年（2001年）の6月上旬から中旬にかけて、午後6時前後に、大きいクヌギの樹上で十数頭が乱舞するのを確認している。

## 3. ウラナミアカシジミ *Japonica saepestriata*

1970年代には個体数が多く、6月の朝方には筆者宅の庭先を飛ぶことも珍しくなかった。1972年の6月下旬には、夜間クヌギの枝の狭い範囲に、5頭が静止しているのを見たこともある。1980年代に入ってからは見られなくなっていたが、昨年（2000年）6月16日に、やっと1頭だけ確認することができた。

## 4. ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia*

前種と同様に1970年代には個体数が多かったが、1980年以降は見られなかった。それが昨年の6月16日に、1頭だけ確認することができた。

## 5. ミドリシジミ *Neozephyrus japonicus*

成虫は6月上旬から下旬にかけて見られる。1973年5月には安乎町の中田や平安浦のハンノキ林で、多数の幼虫を取り飼育した（本誌No. 10）。その年は成虫も多かったが、翌年からは少なくなり、数年後には見られなくなった。

## 6. オオミドリシジミ *Favonius orientalis*

1951年6月10日に、安乎町平安浦で雄1頭を採集しただけである。

## 7. トラフシジミ *Rapala arata*

1990年5月1日に、自宅の花畑で雄1頭を採集しただけである。

## 8. ベニシジミ *Lycaena phlaeas*

成虫が見られるのは、普通の年で2月下旬から12月初旬であるが、暖かい年には12月末から1月になっても活動している。

## 9. ウラナミシジミ *Lampides boeticus*

7月から成虫が見られ、12月下旬まで活動していることが多い。越冬を確認したことはないが、1998年1月2日に活動するのを見ている。

## 10. ヤマトシジミ *Pseudozizeeria maha*

12月から1月にかけては、晩秋に羽化した個体が見られ、2月には羽化直後の個体を確認している。したがって、成虫は年中見られることになる。

## 11. シルビアシジミ *Zizina otis*

あまり注意して観察しなかったこともあるが、1976年以降は成虫を見かけなかった。1998年4月19日に、自宅近くにある田の畔のミヤコグサの群落で、多数の本種を確認した（本誌No. 47）。その後も少ないながら生息を確認している。

## 12. ルリシジミ *Celastrina argiolus*

成虫は3月から10月頃まで見られる。

## 13. ツバメシジミ *Everes argiades*

成虫は3月下旬から10月にかけて見られる。

## 14. ウラギンシジミ *Curetis acuta*

第1化は6月から、第2化は9月頃から現れる。越冬した個体は4月頃まで見られる。

## テングチョウ科

### 1. テングチョウ *Libythea celtis*

5月下旬から羽化し始め、6月には個体数が多くなる。越冬した個体は3月頃から5月の初め頃まで見られる。

## マダラチョウ科

### 1. アサギマダラ *Parantica sita*

たまに見られる程度で、全く見られない年もある。

## タテハチョウ科

### 1. ウラギンスジヒョウモン *Argyronome laodice*

1950年代には、安乎町平安浦の山麓にある他の堤防で、6月ごろ多くの個体が見られたが、1970年以降は草原が荒廃して、全く見られなくなった。

### 2. ミドリヒョウモン *Argynnis paphia*

5月末から現れて花にも来るが、真夏には見られず9月に再び活動する。

### 3. クモガタヒョウモン *Nephargynnis anadyomene*

1974年9月20日に、雄を1頭採集しただけである。

### 4. メスグロヒョウモン *Damora sagana*

6月に出現して夏眠の後、9月から10月に活動する。秋には雌がよく見られたが、ここ数年は見えていない。

### 5. オオウラギンヒョウモン *Fabriciana nerippe*

ウラギンスジヒョウモンと同様に、1950年代には平安浦の池の堤防で、6月下旬頃多くの個体が見られたが、1970年以降は全く見られなくなった。

### 6. ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius*

4月から9月にかけて見られ、1950年代に比べるとずいぶん多くなった。本種の幼虫は他のヒョウモン類と違って、パンジーなどの園芸用のスマレにもつく。

### 7. コミスジ *Neptis sappho*

4月から10月頃まで現れ、他のチョウが少なくなる真夏でもよく見かける。

### 8. キタテハ *Polygonia c-aureum*

第1化の成虫は6月上旬から現れ、数回の発生を繰り返して11月まで見られる。3月から4月には越冬した個体が見られる。

### 9. ルリタテハ *Kaniska canace*

第1化の成虫は6月から現れ、年3回ほどの発生で10月頃まで見られるが、あまり多くない。3月から4月には越冬個体が見られる。

### 10. ヒオドシチョウ *Nymphalis xanthomelas*

1950年代には見かけたことがあったが、その後は全く見ていない。

### 11. ヒメアカタテハ *Cynthia cardui*

1950年代には少なかったが、次第に個体数が多くなり、暖かい年には成虫越冬も見られるようになった。(本誌 No. 44)

### 12. アカタテハ *Vanessa indica*

第1化の成虫は5月下旬から現れ、数回の発生を繰り返して10月頃まで見られる。越冬個体は、暖かい日には真冬でも飛翔し、5月頃まで見られる。

### 13. イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas*

安乎町で最初に採集されたのは、1984年9月のことであるが(本誌 No. 31)、筆者が最初に確認したのは1996年8月18日のこと、その後は時々見かけるようになった。昨年

(2000年)の11月26日には自宅の近くで、吸蜜活動中の本種を確認している。

14. コムラサキ *Apatura metis*

1992年6月に自宅の庭で雄を目撃し、1993年の6月に雌を採集したのが、安乎町における最初の記録である(本誌 No. 38, 39)。その後は毎年のように発生を確認しているが、個体数は年によって大きな差が見られる。

15. ゴマダラチョウ *Hestina persumilis*

自宅の横に大きなエノキがあり、成虫は5月から8月にかけて見られるが少ない。

ジャノメチョウ科

1. ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus*

3月下旬から9月末にかけて見られ、個体数も多い。

2. ジャノメチョウ *Minois dryas*

6月中旬から9月にかけて見られ、個体数も多い。もともと少ない方ではなかったが、1980年頃から特に数が多くなったようである。これは、ススキの草原が多くなったことと関係があると思われる。

3. ヒカゲチョウ *Lethe sicelis*

5月から10月まで見られ、個体数も多い。

4. サトキマダラヒカゲ *Neope goschkevitschii*

第1化は3月末から6月初旬にかけて現れ、個体数も多い。第2化は7月から8月にかけて見られる。

5. ヒメジャノメ *Mycalesis gotama*

5月末から10月にかけて見られる。

6. コジャノメ *Mycalesis francisca*

5月から9月にかけて見られる。

7. ウスイロコノマチョウ *Melanitis leda*

1998年10月28日に、自宅近くで雄を採集しただけである(本誌 No. 48)。

8. クロコノマチョウ *Melanitis phedima*

安乎町で最初に採集したのは、1989年8月(本誌 No. 36)のことで、その後は次第に個体数も多くなった。夏型は6月下旬から現れ、秋型は9月ごろから12月まで見られる。3月から4月には越冬した秋型がよく見られる。

## メンガタメクラガメの採集記録

堀田 久

メンガタメクラガメ *Eurystylus coelestialis* の淡路島における採集記録は、これまでのところ少ないようであるが、筆者は下記のように本種を採集したので、報告しておきたい。

1. 採集年月日 2000年8月1日 lex.

2. 採集地 洲本市安乎町北谷

なお、採集した個体は、タラノキの花上に止まっていたものであり、標本は筆者が保管している。

(ほりたひさし)